

専門職の早期支援を

熊本地震 被災事業者が報告



登壇した松尾さん

シンポジウム「要介の一人、松尾弥生・榎護高齢者と熊本地震」南阿蘇ケアサービス副
が8月20日に都内で開 ホーム長（熊本県南阿
蘇村）は「被災した事

業所には早期に外部からの専門職の支援が必要だ」と話した。

松尾さんは発災直後、混乱する介護職員に「食事、排せつ、心のケアを行う」と具体的な指示を出して落ち着かせた。職員も被災しており休まない、倒れてしまうと判断し、3動1休を徹底。使命感から休みながらなかつたが、給与を多く払

つて休ませたという。また村内の他施設も支援が必要と考え「みなみ阿蘇福祉救済ボランティアネットワーク」を立ち上げたり、村の許可を得て福祉避難所になったりした。同ネットワークでは村内9施設に延べ1500人以上の介護・看護の専門職を派遣。松尾さんは「事業を続けられているのはボランティア

ティアのおかげ」と感謝。また福祉避難所としては多い時に18人の要介護者を受け入れた。初めて会う人は症状が分からないなどの課題が見え「事前の検討や想定が欠かせない」と話した。

今も基幹道路が通れず、迂回通勤で使う山道も冬に凍結するといった問題がある中、松尾さんは「村民と一緒に地域の課題に對し考え行動していきたい」とした。

ほかのシンポジウムでは、熊本地震でボランティアをした川内潤

・NPO法人となりの川高寿園給食サービス代表理事（神奈川県）は「ボランティアネットワークに強い地域だ」と話し、菅原由紀枝・特養ホー

また服部安子・浴風会ケアスクール校長（東京都）は災害支援について「行政主導でインフラの整備は進むが、人の心の支援が置き去りにされている」と述べている。

シンポジウムの主催はNPO法人杉並介護者応援団。東京都杉並区で在宅介護者の応援活動や地域づくりを行っている。